

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 10 日現在

機関番号：23903

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2014～2015

課題番号：26893224

研究課題名(和文) 幼児期の社会的スキル発達が学童期の学校適応に与える影響

研究課題名(英文) The Effects of Social Skills in Behavioral Adjustment from Preschool through Early school

研究代表者

細川 陸也 (Hosokawa, Rikuya)

名古屋市立大学・看護学部・助教

研究者番号：70735464

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、幼児期の社会的スキルの発達に関連する育児環境の特徴と、社会的スキルが学童期の社会適応に及ぼす影響を明らかにすることを目的とした。愛知県内の幼児(5歳児)およびその1年後の小学1年生の児に対し縦断調査を実施し、1,712名より回答を得た。調査方法は、育児環境、社会適応に関する質問紙調査を養育者に実施し、担任の幼稚園教諭及び保育士が社会的スキルを評価した。パス解析を実施したところ、幼児期における経済状況および両親の学歴は、それぞれ独立して両親の関係性および養育態度に関連し、また、それらを介して社会的スキルの発達に関連を示した。さらに幼児期の社会的スキルは、学童期の社会適応に影響を示した。

研究成果の概要(英文)：This study examined the concurrent and longitudinal relations of SES, marital conflict, parenting practices, and child social skills and behavioral adjustment. The sample included 1,712 preschoolers aged 5 years at T1, and first-graders aged 6 years at T2, participating in the second wave of a longitudinal study in Aichi prefecture. Parents completed a self-reporting questionnaire regarding their SES, marital conflict, parenting practices, and child behavioral adjustment. Then, their children's teachers evaluated the children's social skills. The path analysis results revealed that T1 family economy and parental education levels were respectively related to T1 social skills and T2 behavioral problems, through their influence on marital conflict, and parenting practices. Notably, after controlling for T1 behavioral problems as mediating mechanisms in the link between family factors and behavioral adjustment, T1 social skills significantly, inversely influenced T2 behavioral problems.

研究分野：幼児期における社会性の発達

キーワード：社会的スキル 学校適応 幼児期 学童期 育児環境

1. 研究開始当初の背景

近年の不登校、いじめなどの学校不適応の増加に伴い、児の社会的スキルの発達への関心が高まっている¹⁾。社会的スキルとは、社会性を「社会活動を形成・維持するための具体的行動」として捉えた概念である²⁾。特に、自分の考えや行動を他者へ適切に表出する“自己表現 (assertion)”，自分の感情をコントロールする“自己制御 (self-control)”，他者への共感や向社会的な行動を実践する“協調 (cooperation)”などといった社会的スキルの未発達は、生涯の社会適応に負の影響を及ぼすことが指摘されている³⁾⁴⁾。

社会的スキルの発達に影響を及ぼす環境因子としては、日常的な児へのかかわり行動（家庭における育児）、家庭の社会経済的状況（収入・教育歴など）、家庭への社会的サポート、早期教育の機会、保育ケアの質などが挙げられており、特に、日常的な児へのかかわり行動では、発達初期における安定した親子の愛着関係が、後の仲間関係などにみられる対人関係性・対人関係スキルを高めることが指摘されている⁵⁾。

社会的スキルの発達はそうした環境因子に働きかけることで介入可能であり、養育者に対する子育て支援プログラム [Parent Training] や、児に対する社会的スキル訓練 [Social Skills Training] などにおいて、その有効性が実証されている⁶⁾。したがって、児の社会的スキルの発達を適切に評価し、発達が十分でない児、またそのリスクのある児に対して、積極的に支援を講じることは、生涯の社会適応に有効である。

しかし、上述した社会的スキルの知見の多くは海外の実証研究であり、国内における知見の蓄積は乏しい。海外とは社会文化的背景が異なることから、国内において、社会的スキルの発達に影響する育児環境の特徴を明らかにすることは重要である。特に、社会的スキルの発達に影響を及ぼす、日常的な児へのかかわり行動、家庭の社会経済的状況、家庭への社会的サポートの特徴は、十分に明らかとなっていない。また、国内における幼児期から学童期にかけての縦断調査は極めて少ないことから、幼児期から学童期にかけての育児環境の特徴が、社会的スキルの発達および社会適応にどのように影響を与えているのかは明らかとなっていない。

2. 研究の目的

本研究は、幼児期の社会的スキルの発達に関連する育児環境の特徴と、その社会的スキルの発達が、学童期の社会適応に及ぼす影響を明らかにすることを目的として実施する。本研究の成果により、社会的スキルの発達に影響を及ぼす育児環境の特徴を明確化し、学校不適応の未然防止に向けた育児支援に寄与することを目指している。

3. 研究の方法

[調査 1] H26 年 10-12 月、愛知県内の幼稚園 52 施設、保育園 78 施設に在籍する年長児（5-6 歳児）5,024 名を対象とし、その養育者へ育児環境に関する自記式質問紙調査を実施した。また、担任の幼稚園教諭および保育士が、社会的スキル評価指標を用いて、児の社会的スキル（協調、自己制御、自己表現）を評価した。

[調査 2] 1 年後の H27 年 10-12 月、小学 1 年生（6-7 歳児）3,298 名を対象とし、その養育者へ育児環境および学校適応に関する自記式質問紙調査を実施した。

4. 研究成果

[調査 1] では、5,024 名に調査を実施し、3,298 名から有効回答を得、1 年後の [調査 2] では、3,298 名に調査を実施し、1,712 名から有効回答を得た。本報告では [調査 1] および [調査 2] で回答の得られた 1,712 名のうち、両親世帯の児 1,604 名を分析対象とした。

[調査 1] における対象属性は、平均年齢 6.09±0.30 であり、男児 826 名（51.5%）・女児 778 名（48.5%）で、所属施設は、幼稚園 778 名（48.5%）、保育所 826 名（51.5%）であった。両親の年齢は、母親 37.41±4.47 歳、父親 39.33±5.44 歳であり、家庭の社会経済的状況は、Table 1 に示した。年収では 500 万-599 万円の世帯が最も多く、両親の教育年数は、母親 14.13±1.75 年、父親 14.56±2.25 年であった。また、両親の関係性および養育態度は Table 2 に示し、児の社会的スキルおよび社会適応の状況は、Table 3 に示した。

Table 1. 家庭の社会経済的状況

	%
世帯年収	
<400 万円	18.1
400-599 万円	34.2
600-799 万円	23.5
800-999 万円	11.8
1,000-1,199 万円	6.8
≥1,200 万円	5.5
母親の最終学歴	
中学校	2.2
高等学校	23.2
短大 / 専門学校	41.4
大学 / 大学院	33.2
父親の最終学歴	
中学校	4.8
高等学校	24.0
短大 / 専門学校	15.0
大学 / 大学院	56.2

Table 2. 両親の関係性および養育態度

	Range	M	SD	
両親の関係性				
Destructive marital conflict	4-20	9.88	3.01	.77
Constructive marital conflict	6-30	25.16	4.14	.86

養育態度				
Poor monitoring/supervision	10-50	12.87	2.94	.71
Inconsistent discipline	6-30	14.53	3.77	.73
Corporal punishment	3-15	7.06	2.17	.72
Positive parenting	6-30	22.35	3.49	.76
Involvement	10-50	37.99	5.07	.75

Note: 両親の関係性: Quality of Co-Parental Communication Scale (QCCS), 養育態度: Alabama Parenting Questionnaire (APQ)

Table3. 児の社会的スキルおよび社会適応

	Range	M	SD	
社会的スキル				
Cooperation	0-16	10.97	4.13	.94
Self-control	0-16	14.18	2.64	.90
Assertion	0-16	14.08	2.37	.84
社会適応				
T1 Internalizing problems	0-20	3.34	2.70	.65
T1 Externalizing problems	0-20	5.02	3.21	.74
T2 Internalizing problems	0-20	3.88	3.04	.71
T2 Externalizing problems	0-20	5.15	3.29	.77

Note: 社会的スキル: Social Skills Questionnaire (SSQ), 社会適応: Strengths and Difficulties Questionnaire (SDQ), 調査1: T1, 調査2: T2

幼児期における育児環境 [社会経済的状況, 両親の関係性, 養育態度] および児の社会的スキルの発達, 1年後の学童期における社会適応との関連を分析する為, パス解析を実施した (Table 4)。

分析の結果, 幼児期における経済状況および両親の学歴は, それぞれ独立して両親の関係性および養育態度に関連し, またそれらの育児環境因子は児の社会的スキルの発達に関連を示した。さらに幼児期の社会的スキルは, 就学後における社会適応に影響を示した。

Table4. 育児環境および社会的スキルの発達と社会適応との関連

Construct	B	SE	β
社会経済的状況			
FI → DMC	-.11	.03	-3.83 ***
FI → CMC	.09	.03	3.04 **
FI → NPP	-.11	.03	-3.82 ***
FI → PPP	.09	.03	3.05 **
FI → SS	.09	.03	3.29 **
FI → T2-IP	-.08	.02	-3.48 ***
FI → T2-EP	-.06	.02	-2.65 **
MEL → DMC	-.03	.03	-0.90
MEL → CMC	.07	.03	2.17 *
MEL → NPP	-.07	.03	-2.28 *
MEL → PPP	.06	.03	2.03 *
MEL → SS	.04	.03	1.18
MEL → T2-IP	-.09	.02	-3.75 ***
MEL → T2-EP	-.05	.02	-2.11 *
PEL → DMC	-.10	.03	-3.46 ***
PEL → CMC	.10	.03	3.31 ***
PEL → NPP	-.06	.03	-2.08 *

PEL → PPP	.01	.03	-3.8
PEL → SS	.08	.03	2.85 **
PEL → T2-IP	.04	.02	1.69
PEL → T2-EP	-.02	.02	-6.7

両親の関係性

DMC → NPP	.22	.03	6.83 ***
DMC → PPP	.01	.03	0.30
DMC → SS	-.11	.03	-3.47 ***
DMC → T2-IP	.08	.03	3.08 **
DMC → T2-EP	.05	.02	2.25 *
CMC → NPP	.01	.03	0.19
CMC → PPP	.26	.03	8.16 ***
CMC → SS	.09	.03	2.68 **
CMC → T2-IP	-.03	.03	-1.09
CMC → T2-EP	-.01	.02	-0.54

養育態度

NPP → SS	-.10	.03	-3.90 ***
NPP → T2-IP	.07	.02	3.30 ***
NPP → T2-EP	.20	.02	10.08 ***
PPP → SS	.08	.03	3.10 **
PPP → T2-IP	-.05	.02	-2.56 **
PPP → T2-EP	-.10	.02	-4.90 ***

社会的スキル

SS → T2-IP	-.38	.02	-18.65 ***
SS → T2-EP	-.45	.02	-22.75 ***

社会適応

T1-IP → T2-IP	.50	.02	27.03 ***
T1-EP → T2-EP	.39	.02	21.30 ***

Note: FI: Family income, MEL: Maternal education level, PEL: Paternal education level, DMC: Destructive marital conflict, CMC: Constructive marital conflict, NPP: Negative parenting practices, PPP: Positive parenting practices, SS: Social skills, T1-IP: T1 Internalizing problems, T1-EP: T1 Externalizing problems, T2-IP: T2 Internalizing problems, T2-EP: T2 Externalizing problems, * $p < .05$; ** $p < .01$; *** $p < .001$

本結果より, 幼児期の育児環境によって影響を受けた社会的スキルの発達は, 学校適応の予測因子になる可能性が示唆された。本研究によって明らかとなった社会的スキルの発達に関連する育児環境の特徴は, 今後の学校不適応の未然防止に向けた育児支援に活用できると考えられる。

引用文献

- 1) 文部科学省: 児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査. 2012
- 2) Gresham, F. M. Conceptual and Definitional Issues in the Assessment of Children's Social Skills. Journal of Clinical Child Psychology. 1986, 15(1), p.3-15.
- 3) David P Weikart. Changing Early Childhood Development through Educational Intervention. PREVENTIVE MEDICINE. 1998, 27, p.233-237.
- 4) Castro, D. C., Bryant, D. M.,

Peisner-Feinberg, E. S., & Skinner, M. L. Parent Involvement in Head Start Programs: The Role of Parent, Teacher and Classroom Characteristics, Early Childhood Research Quarterly . 2004, 19, p.423-430.

- 5) NICHD Early Child Care Research Network: Early Child Care and Children's Development Prior to School Entry: Results from the NICHD Study of Early Child Care. American Educational Research Journal . 2002, 39(1), p.133-164.
- 6) Gresham, F. M . Assessment and classification of children's social skills: A review of methods and issues. School Psychology Review . 1984, 13, p.292-301.

5 . 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 0 件)

〔学会発表〕(計 1 件)

- 夫婦関係と就学前児の社会的スキル発達との関連 . 細川陸也, 志澤美保, 桂敏樹 . 第 74 回日本公衆衛生学会総会

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況 (計 0 件)

取得状況 (計 0 件)

〔その他〕

なし

6 . 研究組織

(1)研究代表者

細川 陸也 (HOSOKAWA, Rikuya)

名古屋市立大学看護学部 助教

研究者番号 : 7073546